

平成27年6月第2回八街市議会定例会会議録（第7号）

1. 開議 平成27年6月23日 午前10時00分

1. 出席議員は次のとおり

- 1番 長谷川 健 介
- 2番 鈴木 広 美
- 3番 服 部 雅 恵
- 4番 小 菅 耕 二
- 5番 小 山 栄 治
- 6番 木 村 利 晴
- 7番 石 井 孝 昭
- 8番 桜 田 秀 雄
- 9番 林 修 三
- 10番 山 口 孝 弘
- 11番 小 高 良 則
- 12番 川 上 雄 次
- 13番 中 田 眞 司
- 14番 古 場 正 春
- 15番 林 政 男
- 16番 新 宅 雅 子
- 17番 加 藤 弘
- 18番 京 増 藤 江
- 19番 右 山 正 美
- 20番 丸 山 わき子
- 21番 鯨 井 眞佐子
- 22番 湯 淺 祐 徳

1. 欠席議員は次のとおり

な し

1. 地方自治法第121条の規定による会議事件説明のための出席者は次のとおり

○市長部局

・議案説明者

市	長	北 村 新 司
副	市	長 榎 本 隆 二
総 務 部	長	武 井 義 行

市 民 部 長	石 川 良 道
経 済 環 境 部 長	麻 生 和 敏
建 設 部 長	河 野 政 弘
会 計 管 理 者	醍 醐 真 人
財 政 課 長	江 澤 利 典
都 市 整 備 課 長	大 木 俊 行

・連絡員

秘 書 広 報 課 長	鈴 木 正 義
総 務 課 長	山 本 雅 章
道 路 河 川 課 長	横 山 富 夫

○教育委員会

・議案説明者

教 育 長	加 曾 利 佳 信
教育委員会教育次長	吉 田 一 郎

1. 本会議の事務局長及び書記は次のとおり

事 務 局 長	藏 村 隆 雄
副 主 幹	梅 澤 孝 行
主 査	中 嶋 敏 江
主 査 補	須 賀 澤 勲
主 査 補	居 初 理 英 子

1. 会議事件は次のとおり

○議事日程（第7号）

平成27年6月23日（火）午前10時開議

日程第1 議案第10号

質疑、討論、採決

## ○議長（湯浅祐徳君）

ただいまの出席議員は22名です。したがって、本日の会議は成立しました。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は配付のとおりです。

傍聴の方に申し上げます。傍聴人は、傍聴規則第8条の規定により、議事について可否の表明、または騒ぎ立てることは禁止されています。また、携帯電話をお持ちの方に申し上げます。電源を切るか、マナーモードに切りかえるようご協力ください。

日程第1、議案第10号に対する質疑を行います。

質疑の通告がありますので、質疑を許します。

なお、会議規則第57条及び議会運営等に関する申し合わせにより、各議員の発言時間は答弁を含め40分以内とし、質疑回数の制限は設けません。また、上程された議案についての質疑でありますので、議題外にその範囲が広がらないようお願いいたします。

7名の方から質疑の通告がありました。最初に、桜田秀雄議員の質疑を許します。

## ○桜田秀雄君

それでは、議案第10号について質問をさせていただきます。

予算書ですが、11ページ、歳出の榎戸整備事業費3億4千300万円についてお伺いをいたします。

この予算は、榎戸駅自由通路及び駅舎橋上化受託事業費ということで、総事業費15億9千900万円のうち、平成27年度分となっております。6月3日でございますけれども、一般質問の中で、榎戸駅事業の進捗状況を質問し、現在JR千葉支社と詳細設計について協議中であるとの答弁をいただいたばかりです。

6月14日の朝刊に折り込まれたチラシは、私にとっては大変ショックでした。すぐに担当課の窓口へ飛んでいき、担当課から経過説明を求めたわけですが、担当課の話によると、当初、9月定例議会に提案を予定したと。しかし、皆さんが早く早くというから、今6月議会に提案するための準備をしていますというお答えでございました。

急遽6月議会に提案をしたその理由について、お伺いをいたしたいと思っております。

## ○都市整備課長（大木俊行君）

榎戸駅の整備事業でございますが、こちらにつきましては早期着工、完成を目指しておりました。本来であれば、平成27年度当初予算に計上する予定でございましたが、JR千葉支社の方で詳細設計を行ってございましたが、ここにきまして、人件費・資材等の高騰がございまして全体事業費がかなり膨らみました。このことから、我々としましては、JR千葉支社において、全体設計の見直しをしていただきたいということの要望をいたしました。このことから、JR千葉支社で詳細設計を行ってございましたが、この議会開催中の6月10日の夜にJRから全体事業費の提示がございました。その後、次の日に、庁舎内での協議を行って、この6月定例議会に上程するという運びになったものでございます。

上程が遅れることによりまして、今後の国庫補助事業や工期等に大きな支障が出るものが

あると思われることから、この6月に出したものでございます。

以上でございます。

**○桜田秀雄君**

担当課が、皆さんが、皆さんがというから今準備しているのだと、こういうお話でございました。今話を聞きますと、6月10日ですか、JRの方から話があって、最終的には11日に庁舎内で本議会に提案をしていこうという話になったということでございますけれども、私たちは早くしてくれという立場にありません。また、議長に伺いましたら、私も催促した覚えはないという話だったのですが、これは民間人がこんなことをおっしゃる話はございますよね。上司の指示であればこれは指示ですから、私はこれは議会関係者からの話もあったのではないかと思うのですが、その辺、わかっている範囲で結構ですけれども、お答え願います。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

一般市民の方から、よく我々都市整備部の方には、電話、窓口の方に今の榎戸駅の改修状況については問い合わせがございまして。ただ、今言われたとおり、議員からのそういう要請とかの内容についてはございません。

**○桜田秀雄君**

6月11日に役所内で追加提案の方針が決まったと、こういうことでございますけれども、決まれば当然議会事務局と相談をすることになると思うのです。事務局も、会期がありませんから時間がない。そういうことで早くしてくださいと、これを言うのは当然でありまして、また、そういう相談があれば、議長・副議長にお話がいくことも、これは議会運営上当然のことであろうと、私は思うんですね。

しかし、そういう職務上知り得たというか、そういう情報をもとに情報を市民の皆さんに提供する、こういうことは、これは職務上知り得た秘密ですから、これはあってはならないと私はこのように思うんですね。榎戸駅改良については、国鉄当時、一回橋上化の話がありまして、失敗した経緯もございまして。ですから、慎重に事を運ぶ必要があると私は考えていたわけでございますけれども、6月20日の新聞報道にも載っておりますけれども、副議長が辞職なさった。こういう報道がなされております。市長や職員の皆さんが一生懸命やっているのに、この事業に汚点を残してしまった。そういう意味では大変残念であると思います。

**○議長（湯浅祐徳君）**

桜田秀雄議員に申し上げます。議案第10号に対しての質疑でございますので、質疑を変えていただきたいと思っております。

**○桜田秀雄君**

それでは、駅舎橋上化及び自由通路設計に至った経緯、これについて具体的にお話を伺ってまいります。

総事業費は15億9千900万円ということでございますけれども、一般質問の中で、執行部から詳細な答弁がありましたけれども、榎戸駅に自動改札機、これは置かないと、現状

と同じようにタッチパネル方式の改札機という答弁がありました。ということは、4月1日から職員の配置時間、営業時間、これが短縮されました。そういう意味からすると半無人駅、こういうことになりますけれども、こうした事業に16億円もの投資とは、ちょっと私も考えさせられるなと思っているわけでございます。

JRとの話し合いの中で、1つ目には、単純に東口だけを改修すると、2点目には既存の駅舎を利用したまま東口を改修する、3番目に既存の跨線橋を利用して安価に整備するなど、さまざまな案が検討されたと、このようにお伺いをいたしております。

結果的には、今提案されている必要最小限な施設で利用者の利便性向上となる東西自由通路及び駅舎橋上化の建設になったということでございますけれども、この交渉の過程で、JRの見解、厚い壁があったと思うのですが、大変ご苦勞なさったと思うのですが、その辺JRはどのような見解を持っていたのでしょうか。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

榎戸駅の改修につきましての経緯でございますが、まず、単純に東口を開設する。これにつきましても、八街市としては平成13年から、地元区と榎戸周辺地区の方々とお話をしておりましたが、その中でも、東口を作るだけの案、あとは自由通路を作るだけの案を含めて、JRとの協議をしてございました。ただし、JRの基本方針といたしましては、人件費また維持管理費の面から、一駅に一改札口、これは八街とか榎戸駅にかかわらず東日本千葉の方針でございますが、1つの改札口ということございました。このことから、東口改札口の開設は認めないと、これがJRの見解でございます。

また、仮にJRが改札口の開設を許可したとしても、東口を作る用地が東側にはございませんので、結果的には設置できないというふうに判断しております。

#### ○桜田秀雄君

議案提出前の説明の中で、既存の跨線橋、これについてのお話がありました。現在の跨線橋は基準を満たしていない、こういうことでございますけれども、JRには電車の運行に支障を来さないように、いわゆる建築限界、こういうことを基準として設けております。例えば、電車の窓からお客様が身を乗り出したりあるいは手を出したりした場合に、障害物にあたらないように、電柱や構造物については一定の距離を置くと。あるいは駅構内については、状況については、昔は蒸気機関車でございましたからよかったですのですが、電化になり、電車になりました。こういうことになりまして、電車の上にはパンタグラフがつくようになりました。当然、このパンタグラフも4～50センチ高くなります。また、その上には電源をとる架線というものが流れておりまして、この架線をつるすロープ、これが30センチ以上はないといけないと、こういうことになっておりますから、当然そこには電流が流れておりまして、約3万ボルトの電流が流れております。そういう意味で、現在の跨線橋は5.5メートルでございますけれども、新しい基準では7.5メートルと、このようになっているのだらうと思います。

そうしたさまざまなJRの中の制約がございますから、橋上化はやむを得ないのかなと私

は思っておりますけれども、ある意味では正しい選択ではなかったのかなと、このように思っております。

次に、事業についてお伺いをいたします。事業経費の負担割合はどのようになっているのか、まずお伺いをいたします。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

今回の事業費の負担割合でございますが、八街市が15億9千900万円、JRが7千200万円でございます。

**○桜田秀雄君**

平面図をちょっと見せてもらったのですが、エレベーター、いわゆるラッチといいますけれども、改札口を。ラッチ内のエレベーターについても費用の負担を求められていると思うのですが、その辺はいかがですか。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

今回の経費負担につきましては、平成22年に出されました国土交通省の自由通路の整備及び管理に関する要綱、この中で定められておまして、まず駅の、今ある駅と同等のものを整備した場合と、それと今ある残債の価格を引いたものと、改札内、今言われましたその中のエレベーターの設置費用の3分の1を、それと下りホームの上屋の設置については、JRが負担するというようにされております。

**○桜田秀雄君**

工事が完了いたしますと、当然不動産登記をなさると思います。このときに、このラッチ内のエレベーターについては、どのような取り扱いになるのでしょうか。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

その辺につきましては、今後JRと協定を結びますので、その中で検討していきたいと考えております。

**○桜田秀雄君**

皆さん聞いて、JRの負担が本当に少ないなど、こういうふうに皆さん受け取っているのだらうと思うんですね。JRの基本的な考え方は、将来、登記をしてJRの財産になることについては一定の金を出しましょうと、それ以外のことは、今の駅でも十分に合うので、営業的には。そういうことから、市の方から、ぜひとも橋上化をしたいという話があったので、そのお金はみんな市の方で出してくださいよと、これは基本的な姿勢でございまして、今までよその駅舎改築もやってきましたけれども、ほとんど同じような内容でございます。

次に工事についてお伺いするわけですが、工事事業者の選定について、これは鉄道という特殊性がございまして、工事の主体、これはJRになるのかなと思うのですが、その辺の取り扱いはどのようになるのですか。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

榎戸駅の整備につきましては、本市とJR東日本千葉支社で、工事施工に関します協定を締結いたします。その後、この趣旨にのっとりまして、JR千葉支社が業者選定をするこ

とになりますので、八街市が直接関与することはございません。

○桜田秀雄君

工事期間についてですが、3年間を要すると、こういうお話を伺っております。

ご存じのように、今JR千葉駅は駅舎改良、駅ビル工事が行われております。これは、たしか13年から始まって18年に工事が完了するという内容でございます。全ての電車を動かしながらの工事ですから時間がかかるわけですが、あれだけの大規模な工事でも5年で終わると、こういうことなんですね。それに比べると、この榎戸駅の駅舎改良3年というのは長いのではないかと、そのように思うのですが、その辺についてはどのように考えていますか。

○都市整備課長（大木俊行君）

工事期間につきましては、本議会でこの追加議案が議決されましたら、JR千葉支社と協定の締結に入ります。実際、協定の締結につきましては、本社決裁になりますので、9月、10月になろうかと思えます。その後、JR千葉支社の方で業者選定をしまして、契約。そうしますと、実際に工事に入るのが年明けになるかと思えます。

JR千葉支社の内容でいきますと、3カ年ですので平成30年度、31年3月末を一応工期として見ておりますが、この工事費、事業費について少しでも削減するために、工期の短縮を今図っております。工期の短縮ができるように夜間だけではなく、昼間できるところについてもやろうというふうに関今検討しておりますので、この3カ年をもっと割るのではないかというふうには考えております。

○桜田秀雄君

地元の皆さんも早く開業してほしい、こう願っていると思えますので、その辺についても、これからできる範囲でご努力をお願いしたいと、このように思います。

次に、トイレ問題について若干お伺いをいたします。

平面図を見ますと、トイレはいわゆる自由通路、そしてラッチ内には設けられず、いわゆる西口の1階、この部分に作るのだということで、東口には設計がされておられません。この辺については、せっきく利便性の向上を図るためにこれだけの税金をつぎ込んでやるというのですから、東口の泉台とか藤の台、白樺台、総武台、そういう皆さんが来てすぐにトイレが使える、そういう状況が望ましいだろうと思うのですが、その辺についてはどうのお考えをお持ちなんでしょうか。

○都市整備課長（大木俊行君）

今回の整備事業につきましては、駅利用者の利便性及び安全性の確保、こちらが重要だと思っております。あとは、慢性的な渋滞の解消がありますので、西口には簡易的なロータリーを設置する考えでございます。その中で、現在あるトイレについては、このままトイレを壊さないと、見通しが悪く交通的にかなり危険だろうと。それから、ロータリーの部分についてもかなり横長に広いという形で、ロータリーが広く使えなくなるということで、やむなく、今回のトイレについては撤去する方向でございます。

それから、今回作る駅につきましては、西口の階段下1カ所になりますが、これにつきましても事業費を少しでも抑えるために、この1カ所になっておりますので、ご理解いただきたいと考えております。

**○桜田秀雄君**

既存のトイレ、立派なものがありますけれども、これはまだ建設して10年はたっていないと思うのですが、私はもったいないと思うんですね。当然、今回東口にはできませんから、将来、必ず地元の皆さんから不便だと、東口にトイレをつくってくれ、こういう話が出てくると思うんですね。その辺について再検討をする、そういう余地はないですか。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

まず、既存のトイレにつきましては、先ほど申したとおり、このトイレを解体しないことにはロータリーができない状態です。かなり厳しい状態であります。それから、東口の方にトイレということでございますが、東口、先ほども申しましたが、駅東側には市の用地がございません。ですので、このトイレを作る場所もないということも1つであります。それから、トイレにつきましては、つくった後の維持管理もかなり出てくるということで、今のところ検討する余地はございません。

**○桜田秀雄君**

今、課長の方から、東口にロータリー問題の話が出ました。そこでお伺いをするわけですが、東口、西口とも用地の取得は済んでいると、こういうことをお伺いいたしております。これまで買収に要したお金は幾らほどかかっているのでしょうか。面積を含めて。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

用地の購入につきましては、まず西口広場として、全体面積が1千6百99.68平米。購入価格につきましては、4千603万7千942円。東口広場として購入しているのが、1千183.89平米、購入価格は3千966万315円でございます。

**○桜田秀雄君**

今回提案されたこの予算の中には、そのお金は入っておりませんが、この広場について、今後整備をしていくわけでございますけれども、それにかかる経費はどのくらいを見込んでいらっしゃるのでしょうか。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

この広場につきましては、西口につきましては、一応設計の方が終わっております。概算ですと5千万円程度が西口広場の整備です。ただ、これにつきましては、西口の広場はほとんどがJR用地になっておりますので、ここにつきましては、基本協定を締結したときに、JRから買い取りをするということになってはいますが、この金額は入っておりません。

それから、東口につきましては、今後、今年度設計をかける予定でございます。ですので、どのくらいかかるかというのは、これから試算されることになっております。

**○桜田秀雄君**

最後に入りますけれども、今回は、議会あるいは市長のご理解をいただきまして、重要な



案件ですから、会期を延長しまして十分な審議ができる、こういう環境を整えました。

市長、時々、最近は最終日に追加議案というのが出てまいります。そして、その場で議案が出されて、はい審議してくださいと、こういう慣例が長く続いてきました。それでは、私たちは市民の皆さんのご期待に応えることができない、このように思うんですね。これからは、これを教訓にしまして、議会と当局と話し合いをして、最終日に出された議案については、もう会期を延長してやるんだよと、こういう前例をつくっていただいて、十分な審議ができるように取り計らいをお願いしておきまして、私の質問を終わります。

○議長（湯浅祐徳君）

以上で桜田秀雄議員の質疑を終了します。

次に、小高良則議員の質疑を許します。

○小高良則君

それでは、私の方から若干質問させていただきたいと思います。

大まかな説明は、全員協議会または議案説明でいただいておりますので、詳細について若干お聞きするわけですが、その前に、北村市長に、この東口開設に向けて、今、議案が上程されているわけですが、東口に対する思い入れのようなことを、ちょっとお伺いしたいと思います。

○市長（北村新司君）

今般、このように議案として上程できましたのは、地元の皆様の今までの長い間の熱意、そして東口開設をお願いするという長い間のあの地区の皆さんの努力が、今回形としてあらわれることになりました。今回上程する運びになったのは、何を置いても、あの地域の皆さんの結束した努力のたまものだというふうに思っています。

○小高良則君

本来、泉台の大きな住宅地を抱えている東口ですから、早くできていれば、利便性、また近隣住民をはじめとした多くの方が便利に榎戸駅を活用できたのかなとっております。また、昨今、少子高齢化が進み榎戸駅の利用者が減少しているようですが、これを機に、榎戸地区の促進も図っていかなくてはいけないのかなと、私は考える次第でございます。

それに伴って、周辺整備も同時に考えていかなくてはいけないと思います。費用もかかりながら、またさまざまな法令、条例に準じていかなくてはいけないと思うのですが、ただ、安易に東口を開発するだけではいけない。八街駅の場合には、再開発事業が伴っていたわけです。榎戸駅は東口開設だけでなく、周辺も同時に考えていかなくてはいけないと思うのですが、その点はいかように考えているか、お伺いいたします。

○総務部長（武井義行君）

榎戸駅の周辺整備、これにつきましては、3月定例会でご承認いただきました八街市基本構想、この中にも土地の利用ということで、榎戸駅周辺を、機能の充実を図りながら住宅市街地、それから都市機能をあわせ備えた都市副次核としての土地利用を進めるということであっております。

具体的には、これからいろいろ検討していかなければならないところなんです、八街市の活性化、これを目指すためにも、いろいろな関係機関と連携をとりながら、作業を進めてまいりたいと考えております。

#### ○小高良則君

まず、利用者減少から利用者増加までを考えていかななくてはいけないと思います。街並みを作るには、基本構想をもととしてしっかりやっていかなくちやいけないわけですが、八街市には農用地、休耕地、遊休地がございます。それらの土地利用も今後は課題になってくるのではないかと考えますが、若干離れているのかもしれませんが、やはり、榎戸駅口開発にあたって大事な案件なので、その農地の例えば転用だったり、また市外からの、今はアンテナショップぽちちからいろんなところにPR活動をしているわけですが、それも含めてやっぱり人口流入と企業誘致と重なってくると思います。それらの緩和策というものも必要になってくる。

自治体の中には、工業団地を持っているところは、初年度の税金をある程度優遇措置をしたりなどありますけど、八街市もそういうことを考えていかなくちやいけないのかなと思います、その考え方を伺いいたします。

#### ○総務部長（武井義行君）

今お話にありましたように、工業団地とかいう、これは過去にもいろいろ市でも検討してまいりましたが、工業団地につきましては、残念ながら八街市に河川がないということで、その雨水の処理の問題から、なかなか計画が進まなかったという経緯もございます。

確かに、農用地等の規制等もございますので、その辺もいろいろと県、また国の関係機関とも協議しなければならないのですが、八街市が目指す姿というものを検討し直した中で、この活性化に向けて進めたいと思います。その第一歩として、この榎戸駅の整備があるというふうに考えておりますので、今後、十分その方向に向かって努力してまいりたいと思っています。

#### ○小高良則君

本来でしたら、JRは民間ですから、切符を買って、お金を払って、電車に私たちは乗らせていただいております。ですから、民間である事業者が利用者のために、利用促進、利便性のために駅の改修、またバリアフリー化を進めなくちやいけないのかなと。本来、皆さんそういうふうにご考えております。しかし、JRとしての考えは、どこかでお聞きしたように、改札は1つで対応していく。そのためには現状の1つの改札口のままだと。ただ、跨線橋に対しては、高さ規制が、現状のものでは若干、30センチ程度ですか、高さが足りないという話がありました。その中で、要望されていた榎戸駅ができるわけですが、本市の税金、またいろいろな補助金等を使うわけですから、よりよいものをつくって、より利用してもらわなくてはなりません。また、求められる側、求める側で立場が違ってきて、当然費用の負担が変わってくるのかなと思います。

本来、JRさんがやらせてくださいといった場合には、費用はJRが多く出すのかなとい

う考えはございますが。八街で公共事業、また一般財源を使う。それによって、今後、八街市の予算編成が大変厳しくなっていくのではないかと考えるわけですが、今後の予算編成においての影響はどのように考えているのか、お伺いいたします。

**○財政課長（江澤利典君）**

それではお答えいたします。

今後の財政状況ということでございますけれども、確かにこの榎戸整備事業費につきましては15億9千900万円という形で、かなり事業費的には大きな数字だと思われれます。ただし、その財源の内訳を若干説明させていただきますと、15億9千900万円の財源の内訳といたしましては、国庫補助金が15億9千900万円の40パーセント、6億4千万円ほど予定をしております。その他今申しました起債費、公共事業等債ということで起債が約8億6千万円、そのほかに千葉県市町村振興資金ということで約6千700万円、それで最後に一般財源ということで2千800万円ということで、極力一般財源を充当しない方向で考えております。

そうした中で、今後の財政状況の推移ということになるのですが、起債の公債費につきましては、来年、平成29年度からクリーンセンターの建設事業の起債がなくなりますので、その分が実際に、今、財政推計の中で計算をしております、その中で約2億円の起債が減るというような形になろうかと思えます。そうした中で、行財政改革推進室で進めている歳入の確保等を考えながら、着実に進めていくことで対応をしてみたいと考えております。

**○小高良則君**

歳入の確保、限られた歳入だけではなくて、僕は一般質問でもしていますけれども、ぜひ歳入の向上を考えて事業推進を進めていただきたいと、お願い申し上げます。

細かいところですが、工事3年中、概ね最後の3年目が実際的な工事着工期間になるのかなと思えますけれども、夜間工事が多くなると思えます。近隣説明、また騒音等の近隣対策はどのように考えているのか、お伺いいたします。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

工事中の騒音等につきましては、今現在、事業者は決定されておりませんが、決定されましたら、まず周辺地域に対しての広報活動、または貼り紙等でお知らせしたいと考えております。

**○小高良則君**

すみません。質問が予算になったり飛んでいますけど、実際、自由通路になると、維持管理費がかかってくると思います。当然、八街駅にあるように防犯カメラを付ける、またその防犯カメラの費用、管理、照明は今のことですから恐らくLED化で電気代の節約を図るものだと思いますが、まず、防犯カメラの設置についての考えからお聞きします。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

八街駅につきましては防犯カメラがついております。榎戸駅については、現在のところまだ考えるというか入っておりませんが、これにつきましては、この3カ年の中でどういう形

を進めていくのかを検討していきたいというふうに考えております。

**○小高良則君**

恐らく、駅近くに交番はありますが、後から付けるのであれば当初から盛り込んだ方がいいのかなと思いますが、協議の中で、できるのであれば、ぜひ検討いただきたいと思います。

また、現行の計画の中での年間の経費は、どのように完成後算定しているのか、お伺いいたします。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

まず、榎戸駅ではなく八街駅の方からちょっとご説明させていただきたいと思います。

八街駅につきましては、年間約1千500万円の経費がかかっております。このうち駅広場の清掃または自由通路の清掃等で420万円程度、あと各種、エレベーターとかエスカレーター、こちらの方で250万円程度、それから光熱費が450万円、こういうものをもろもろ入れますと年間約1千500万円かかっております。

榎戸駅はどうなるかといいますと、通路とか駅前広場の清掃等がございますが、これにつきましては、地元の方とお話し合いをちょっと今させていただきまして、極力地元の方、榎戸駅ということで、地元の駅ということでご協力いただくところがあれば、ご協力いただきたいという形で今話を進めております。

ですから、この清掃業務についてはまだわかりませんが、それ以外の保守点検等につきましてはそこそこかかりますので、八街駅が1千500万円ですから、600万円、700万円はかかるのかなというふうには試算しております。

**○小高良則君**

榎戸駅の完成予想図面のようなものを見せていただきましたが、上屋がございます。その上屋というのは、この費用負担は上屋の部分はどこなのか、また何両までこの上屋は対応しているのか、お伺いいたします。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

ホームの上でございますが、上りホーム、こちらは市が負担しております。下りホームにつきましてはJRに負担していただく。これは、本来でいきますと、ホームの上屋につきましては、JRは負担しないというふうになっていたのですが、協議の中で、JRが下り線のホームについては負担するというふうになりました。

メートルにつきましては、約80メートルを予定しております。ホーム全体にはかかりません。ホームの上の80メートルに上屋が付くという形になっております。

それから、車両が何両までこれが確保できるかという、ちょっと難しいところですが、5両ぐらいはできるのかなと。

**○小高良則君**

80メートルでしょう。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

1両20メートルとすると4両ですね。4両ほどがカバーできるかなというふうに思っています。

#### ○小高良則君

そんなに長い電車は走っていない、特急電車は長いのですけれど。ただ、全部の車両分の長さが付けばいいのですけれども、用地に限りもあるので仕方がないと思いますが。ただ、ホームの延伸だけはしていただけるということで、いいかなと思っています。

続いて、先ほどロータリーの話が出てきました。西口広場は5千万円程度で整備すると。東口はこれからだということですが、西口広場の整備の時期、また東口がこれから予算を組んで議会に図ったりするのでしょうか、荒れたままそのままというわけにもいかないのです、西口、東口の整備をどのくらいの時期に想定しているのか、お伺いいたします。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

まず、東口でございますが、東口については、現在駐車場として使われておりましたので、舗装はされております。東口につきましてはちょっと駅から、駅というか自由通路をおりたところからちょっと離れておりますので、利用目的といたしましては、送迎車のUターンとして使われるのかなというふうには考えています。ですので、もし、この今の財政状況ですからどこまで整備できるか、これは今年度の設計の中でも決めていきますが、可能な限り今あるものを使って、東口については簡易的なもので対応できればなというふうに考えております。

西口につきましては、これはロータリーができないと渋滞緩和にはなりませんので、何かしらのロータリーをこの3カ年間でよく考えていかなければいけないとは考えています。これも、今後、財政状況を見ながら、どのような整備ができるのかを検討していきたいと考えております。

#### ○小高良則君

東口が開設しますと、ロータリーが道路を横断しないといけないわけですが、その安全性の確保についても一緒に、並行して考えるべきだと思います。どのように考えているか、お伺いいたします。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

東口につきましては、現在、駅から泉台側に沿って市道104号線に自転車置場がございます。この部分を改良いたしまして、その部分を車寄せにする予定でございます。ですので、104号線、泉台から上がった車については、車寄せで車が止められる。で、反対方向からきた車については、申し訳ないのですけれども、先ほどの駅広場整備をここでやりますので、その中で車を回していただきたいというふうに考えております。

#### ○小高良則君

自転車置場は、そうするとどうなるのか、お伺いいたします。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

自転車置場については、これは重要なものですので、これも今言っている駅広場の中に、

もしできれば、この辺を考えていきたいというふうには考えております。

○小高良則君

道路側、事故があったらいけないので、歩道の設置はもちろんですが、押しボタン式の信号等の設置の検討は求めています。

東口の名称を考えたことがございますが、ただ東口というのはどうなのかなと思いますけど、東口も西口も含めて、東京駅だと八重洲口とかいろいろあるわけですが、その名称についてちょっとお伺いいたします。

○都市整備課長（大木俊行君）

現在のところ、まだ東口という言い方をしていますが、これにつきましては、皆さんのご意見を伺いながら、決定していきたいと考えております。

○小高良則君

駅口の名称、住所もそうですけど、八街中央という開発したところの住所になりましたが、一度付けると変えられるものではなかなかないと思いますので、大いにちょっと期待しております。

次に、西口ロータリーについて先ほど説明がありました。決して大きな敷地を持った場所、広さを持っているわけではありませんが、先日、議会で視察したときに、あそこが通り抜けできれば大変有効活用できるのかと思いました。その先には、見た限りですが、個人の私有地とか雑種地のようになっているところと、あと畑が広がっていたわけですけど、そこに一本道路を抜いていただくと、利用者も混雑、入り口が線路沿いと、旧スタンドの信号から入ってきたところと今は2本なので、その先に抜けられたらいいのかなと思うのですが、そういうことを検討していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○都市整備課長（大木俊行君）

榎戸駅につきましては、先ほどから申していますとおり、かなり財政的に厳しい中で、やっとここまでこぎつけております。今言われたとおり、確かに1本中に通れば、交通の便としてはかなり有効かなと。ただ、今回の工事につきましては、その部分について借地をしております。今後、その辺についても、できればいいかなとは思いますが、検討をさせていただきたいと思っております。

○小高良則君

作るのですしたら、将来にわたってよりよい活用ができる方策を模索しながら進めるべきだと思うので、ぜひ地権者の方々、関係するの方々のお話を聞きながら検討は重ねていただきたいと思います。

駅の西口も東口も現状で防犯灯はやや少ないのかなと。駅の東口が開設することにより、利用者が増えまして、徒歩の方とかいろいろあると思います。また、並木道は定期的に剪定はされているのですが、まだまだ駅周辺にもかかわらず夜道が大変暗いと、私は認識しております。直接の駅の予算ではないと思うのですが、防犯灯の増設をも含めた防犯対策も求めるわけですが、いかがでしょうか。

○都市整備課長（大木俊行君）

西口のロータリー整備につきましては、今後検討していく中で、防犯カメラ、防犯灯を含めまして、どういう形で整備をするのが一番いいのか、その辺も含めまして検討させていただきたいと思います。

○小高良則君

ありがとうございました。以上で私の質問を終わりますが、執行部にあつては、さまざまな検討を重ねていただいた上程ということで、今後も1つ1つ石橋をたたきながらぐらい慎重に進めていただきたいなという考えをお伝えしまして、私の質問を終わります。

○議長（湯浅祐徳君）

以上で小高良則議員の質疑を終了します。

会議中ではありますが、ここで10分間の休憩をいたします。

（休憩 午前10時49分）

（再開 午前11時02分）

○議長（湯浅祐徳君）

再開します。

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、石井孝昭議員の質疑を許します。

○石井孝昭君

それでは、質問に入らせていただきます。

このたびの整備に関しましては、榎戸駅周辺地区について、平成13年度より周辺区長や市民からなる榎戸駅周辺街づくり勉強会が発足して、平成19年には榎戸駅周辺整備促進協議会が設立されました。JR榎戸駅周辺の住民の皆様においては積年の思いであるというふうに、そういう思いの中で質問に入らせていただきます。

金曜日に閉会の予定が今回の延長議会ということで、議案第10号が先般上程をされました。まず、北村市長にご質問をさせていただきたいと思います。

北村市長におきましては、このJRの榎戸駅整備、市長選の公約であったというふうに理解をしておりますけれども、よく公約では一丁目一番地の公約だとかという話がありますけれども、この榎戸駅整備について、市長、何丁目の何番地の公約に位置しますでしょうか。

○市長（北村新司君）

先ほども小高議員に申し上げたところでございますけれども、この件につきましては、公約というよりも長い間の地域の皆さんの熱意、この熱意を私としては今回上程させてもらったところでございます。

先ほども申し上げましたように、榎戸駅、何とかならないかという、あの地域の皆さんの長い間の思いを、そして今回上程するこういう形になったということでありまして、改めまして地元の皆様にも、逆に敬意を表したいというふうに思っています。

○石井孝昭君

市長におきましては、周辺の今日は傍聴者の皆さん、その思いの中で来られていると思います。前市長時代から懸案事項でありました思いが、この北村市長の中で上程されたということは、非常に市長の強い思いの中で、お酌み取りいただいているものというふうに理解をしております。

それでは、幾つか質問をさせていただきたいと思います。

このJRの新榎戸駅ということですがけれども、先ほど答弁の中ではいろいろ課長よりありましたけれども、榎戸駅の駅長さんというのは、これは置くのか、置かないのか、ご質問します。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

榎戸駅には置かないと聞いております。こちらについては、佐倉管内、管轄になります。

**○石井孝昭君**

自動改札機は置かないということ、出口は1カ所ということ、それでタッチパネル方式ということですがけれども、予定事務員の総数、管理者数はどのくらいの数字なんでしょうか。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

その辺につきましては、今後の協定の中でもう少し協議をさせていただきたいと。まだ今現在では決定しておりません。

**○石井孝昭君**

それは、今後の推移を見させていただきたいと思います。

平成27年度3月議会では、思い起こしますと、この予算編成をする中で、非常に産みの苦しみでこの27年度が可決されたというふうに理解をしております。そのようないろいろな苦しさの中で予算編成をして今執行しているわけですがけれども、このJR榎戸駅の改築、建設の予算等について勘案されたでしょうか、ご質問いたします。

予算編成の中で、今回上程されて、これから予算ということになるのですがけれども、非常に予算が厳しい中で、産みの苦しみの予算が今執行されております。28年度予算、来年度予算の予算編成に、この榎戸駅はどのような影響が出てくるかが予測されるか、推察されるか、ご質問いたします。

**○財政課長（江澤利典君）**

先ほど若干説明をさせていただきましたように、今回の榎戸整備事業のこの15億9千900万円の財源につきましては、国庫補助、起債、振興資金、一般財源ということになっております。その中でも極力一般財源を充当しない方向で、特別な財源を充当するような形をとっております。

したがって、平成28年度の当初予算の編成につきましては、いろいろと特別財源関係もいろいろ調査しなくちゃいけないところもありますけれども、この榎戸駅に関しての一般財源の充当率は今申しましたように、全体で約2千800万円ということですので、影響はないものと考えております。

**○石井孝昭君**



影響はないという課長の答弁をいただきました。非常に安心はいたしましたけれども、市税収入の確保、市税が幾らか上がっているのではないかと。景気が多少浮揚しているという中で、その市税収入の確保とこの市の起債額、起債率は非常に相関関係にあるというふうに理解をしております。基準財政需要額の中で経常収支比率、この推移をどのように見ていますでしょうか。

#### ○財政課長（江澤利典君）

経常収支比率ということでございますけれども、地方公共団体の財政構造の弾力性をあらわしております。すなわち、人件費、扶助費、公債費などの経常的な経費に地方税、地方交付税、譲与税などの経常的な収入がどの程度充当されているかというような比率で示しております。この経常収支比率につきましては、財政の硬直度を示す指標でありまして、この比率が低いほど、いろんな事業に使えるお金の余裕があると言えるというような状況の比率でございます。

そんな中で、本市の場合は平成18年度以降、90パーセントを超えておりまして、新規拡充ということで財源的に厳しい状況というのは変わりはありませんが、その辺の原因といたしましては、市税、地方交付税の伸びに対して、それ以上の義務的経費、人件費、扶助費、公債費の増加が続いておりましたが、これにつきましても、平成27年度予算では、人件費の削減、また公債費におきましては約2億3千万円の減というような形で、義務的経費が落ちておりますので、結果的に、経常収支比率については改善の方向に向かっているのではないかと推測しております。

#### ○石井孝昭君

国の方では地方公共団体は約80パーセント前後が望ましいと言われておりますので、その90から100、100を超える団体も全国でも幾つかありますけれども、その辺の推移は見守って、財政を確保していかなければいけないというふうに思っております。

今回の国の起債と県の起債なんですけれども、県の方は振興基金ということ、国の方は社会資本整備総合交付金の中で、全員協議会での話ですと、これは据置3年、20年の返済ということなんですけれども、この据置3年というのは、完成時、全て終わって検査済時の年度より据置3年で、それから先の20年が償還払いになるのでしょうか。

#### ○財政課長（江澤利典君）

公共事業等債については、ただいま議員が申しましたように、据置3年、償還20年ということで、今回の事業費は27年から30年度という形になっておりますので、その年度ごとに起債を起こす予定でございます。そうしますと、平成27年度債については償還開始は31年度、28年度債につきましては32年度、29年度債については33年度、30年度債については34年度ということで、全て1年ずつ起債の元金償還の開始については、ずれていくというような形になるかと思います。

#### ○石井孝昭君

つまり、今年度起債したものは、3年後の31年からの返済という予定になるということ

ですね。わかりました。

あと、県の方は2年据置の12年償還だったかな。これは県のトータル6千700万円の振興資金ということですが、全体協議会ではこの話がなくて、ちょっと質問もなかったのですが、私の中ではこれは県から補助金をいただけるものというふうに理解をして、正直思っておりました。ところが、この資料をいただきますと、県から振興資金ということで借り入れということになったというふうに思います。この県の振興資金の返済はどのようになるのでしょうか。

#### ○財政課長（江澤利典君）

千葉県市町村振興資金ということで、これも借り入れでございます。その中で、今お示ししてある4カ年の事業費の内訳なんですが、平成27年度が1千440万円、28年度が2千100万円、同じく29年度が2千100万円、30年度が1千万円ということで、トータルでは約6千700万円という形になっております。

それで、全て、先ほどの公共事業等債と同じような形で、据置2年ということで、27年度債については平成29年、28年度債は30年、29年度は31年、30年度は32年というような形で、元金償還が開始されるということになるかと思えます。

#### ○石井孝昭君

つまり、平成29年度から県の振興資金の返済が始まるということでございますよね。28年度にはクリーンセンターが終わるので、起債率に関しては問題がないということですが、この起債率と実質公債費比率、今後の推移をどのように課長は見ていますでしょうか。

#### ○財政課長（江澤利典君）

実質公債費比率につきましては、ご説明いたしますと、市の一般会計等の支出のうち、義務的に支出しなければならない経費である公債費関係、それに基づいて市の標準財政規模を基本とした額で除したものの3カ年平均ということになっております。

本市の公債費比率につきましては、平成23年度11.2パーセント、平成24年度が10.8パーセント、平成25年度につきましては10.4パーセントと、年々減少しているところでございます。さらに、25年度の単年度で見ると9.9パーセントとなっており、改善はされております。

この判断基準といたしましては、早期健全化基準としては25パーセント、財政再生基準としては35パーセントということになっておりますので、現在のところは問題ありませんが、今後の借り入れにつきましては、新しく発行する起債は、償還公債費、いわゆるこの公債費です。償還のバランスを考慮した適切な執行を進めまして、健全財政の運営に努めてまいりたいと考えております。

#### ○石井孝昭君

国から注意が入るのは25パーセント、国の管理に入ると35パーセントということですが、市民の皆さんが一番心配しているのが、その財政の問題かというふうに思ってお

ります。この榎戸駅は間違いなく我々も含めて総論は全員賛成かなというふうに理解をしておりますけれども、財政の問題がどうなるかということが、この議会で明らかになれば、市民の皆様も本当に安心して取り組んでいけるのではないかとこのように思っております。

平成28年から30年度まで債務負担行為を行うということですが、恐らく2020オリンピック・パラリンピックまでは経済の好循環がつかないでいこうと、上がっていかうというふうには予測されておりますけれども、この間、資材の高騰、人件費の高騰、またさまざまな問題が起こった場合に、物価が非常に上がった場合、想定しづらいですが、逆に下がった場合、この物価スライドの指標に関して条項を設けるとは思いますけれども、この物価スライド条項はどのような、JR千葉支社との契約になるのか、ご質問いたします。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

今のご質問でございますが、こちらにつきましても、今後進めていきます協定の中で内容について協議してまいります。例えばJR八街駅につきましてもその協定の中で、たしか物価スライドを見ております。その辺を見込みますと、今回の榎戸駅についても、入ってくる可能性がございます。

**○石井孝昭君**

八街市まち・ひと・しごと創生総合戦略、この策定を今執行部で急いでいると思います。

JR新榎戸駅舎及び橋上化整備との関連付けは、どのようにしていきますでしょうか。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

こちらにつきましては、先ほども申しておりますが、八街駅につきましては市の顔という形で都市核としております。榎戸駅につきましては、都市副次核という形で2番目の駅という形をとっておりますが、周辺地域の環境等を考慮した駅づくり、または地域づくりを目指して進めていくということで、こちらにつきましても次期総合計画、総合構想の中でもそういう形でうたっておりますので、その辺を進めていきたいと考えております。

**○石井孝昭君**

課長、まさに周辺の住民の皆様のご意見をしっかり頂戴した中で、その策定を励んでいただきたい。また、その辺のパブリックコメントや住民説明会を開いて、どのような駅づくりをしていくかというのが非常に大事かなというふうに思っております。

今、市の方でも新5カ年計画をつくっております。この策定と、先ほどのいわゆる地方創生の八街市戦略本部の中で、この榎戸駅舎、この新5カ年計画に関してはどのような関連付けをしていますか。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

今回の総合計画の中でそういう形をうたっておりますが、その辺も含めて、今各庁舎内での協議を進めておりますので、この中でどういう形で進めていくのかを検討していきたいと考えております。

**○石井孝昭君**

人口の問題、人口減少が大変問題になっています。4年前より約3千人も八街市は減少し

ているという現状が、確かにございます。JR榎戸駅周辺に関しても、人口、人を呼び寄せるような施策とか地域づくり、計画づくり、環境づくりが大事なかなというふうに思っております。先ほどから、副次核として、八街駅に次ぐこの駅ということで整備をしていくということでもありますけれども、この副次核としてJR榎戸駅の近辺の人口の流入策、これをお聞きしたいと思っておりますけれども、今現在、榎戸駅周辺は都市計画法で用地地域ではどのような指定になっているのでしょうか。

○都市整備課長（大木俊行君）

榎戸駅周辺につきましては、第一種の住居地域となっております。

○石井孝昭君

近隣の泉台、みどり台、藤の台、榎戸、総武台、さまざまな団地がございますけれども、この辺の団地は第一種住居地域ということになっておりますでしょうか。

○都市整備課長（大木俊行君）

そちらの地域につきましては、第一種中高層住居専用地域となっております。

○石井孝昭君

都市計画法で用途地域の指定があるのですが、今回、榎戸駅整備とその周辺整備に関して、一体的にランドデザインを描いていかなければいけないかと。駅だけを作ればいいというわけではなくて、その近隣周辺の整備もしっかり行っていくということが大事なかなというふうに思っておりますけれども、その用途地域指定の中で、例えばデパートとかスーパーといったさまざまな、例えば大学誘致とか、病院を誘致するということになるのですが、そのようなものを誘致していく際に、第一種住居地域の榎戸駅周辺でそれが可能なかどうかを、ご質問いたします。

○都市整備課長（大木俊行君）

今おっしゃっております第一種住居地域、これは地域指定を保存しておりますが、建物の過密化を防ぐことで良好な環境を守るということで、こちらが指定されております。今言われているような大型店舗等につきましては、第一種住居地域につきましては、店舗では3千平米以下であれば今現在でも建つことは可能でございます。ただ、これ以上のものを作るとなると、この用途地域自体を変更しなければいけないということもございますので、これにつきましては関係機関の方と協議をしていかなければいけないかと考えております。

○石井孝昭君

周辺地域のランドデザインをしっかり描いていくことも、担当課として非常に大事なことであるというふうに思っております。今回に関しては、榎戸駅のための単独経費ということですが、先ほど小高議員の中でも質問がありましたけれども、榎戸駅の今後の周辺整備に関して、推測する総額はどのくらいになるのかというのは、いわゆる今回15億9千900万円ですが、例えば土地の買収とかその周辺整備等をいろいろ加味すると、どのくらいを推測しているのかご質問いたします。

○都市整備課長（大木俊行君）

現在、私たちの方で計画を立てておりますのは、27～29年度までの計画でございます。この中で、先ほど言いました西口の広場、これは用地として4千万円ほど予算を見ておりますが、ただ、これにつきましては近傍地域の価格が当時と今は変わっておりますので、もう少し下がるのかと考えておりますが、それ以外の全体的な街づくりの件につきましては、現在はまだそこまで、予算的なものまでは検討はしておりません。

#### ○石井孝昭君

今後予想をしていかなければならない1つだというふうに思います。今年、固定資産税の評価替えがありますので、その辺もちょっと勘案していかなければいけないと思いますけれども、駅ができると、周辺整備ができる、道路整備が幾らかできる、ましてや先ほどの質問の中で道路が仮に新道をつくった場合に、近傍価格に恐らく倣って標準価格が決まっていくのですけれども、榎戸駅周辺は逆に酒々井より、榎戸駅周辺は固定資産税が高いとか一部ありますけれども、その辺に関しての整備環境を整えていくことは、とても大事だというふうに思っております。

新榎戸駅の建設によって、八街市がこれから発展する1つの大きな起爆剤となること、八街は10年後6万8千人の人口を想定してはいますけれども、この6万8千人の人口の中で、副次核として、この八街が、また榎戸駅周辺が、地域住民の皆様の快適な住環境となるようなことを祈念いたすわけですけれども、北村市長、最後にご質問いたします。

恐らく、この榎戸駅近辺の再開発に伴って、いろんな人口が増えていくということが予想されるのと、またそうしていかなければいけないのと、先ほどの質問のとおり、商工業の発展の1つとなる。八街が、これからさらに八街市の中の榎戸駅が副次核として元気になっていくということを想定して、市長、どのようなお考えで、今回上程されて、今後の10年後、20年後の八街づくりの1つになるかというのを、お聞かせいただけますでしょうか。

#### ○市長（北村新司君）

今回の榎戸駅のこの整備事業を上程するにあたって、今、近隣市町、相川富里市長さん、それから佐倉の蕨市長さん、酒々井の小坂町長さん等とも綿密にお話をしております、酒々井インターチェンジの地域整備ということで、あの辺の地域一帯の土地利用についても、国の考え方、県の考え方もお聞きした中で、あの地域全体を総合的にみんなで活性化をする街づくりにしようという話が、今まとまっております。このことは榎戸駅の整備と関わっておるところでございますけれども、今は1つの街の発展は1つの街であり得ないというのが私の持論でございます。近隣市町村と足並みをそろえた街づくりが八街市の発展になるということでありまして、それを基本にした中で、今、その協議会を立ち上げるまで進んでおります。

この榎戸駅ができ上がることによつての、この地域のそれぞれの土地利用の仕方、いろんな面を含めた活性化をどうしたらいいかということをするための協議会を、今、立ち上げるよう内々に事務的には決まっておりますので、その協議会を活用しながら、この榎戸駅を副次核としてさらに発展するようになるものが、協議会でするように、今後とも私も積極的に

その協議会を活用した街づくりを推進したいというふうに思っております。

○石井孝昭君

強いリーダーシップの中で市長が今申されました。また、駅周辺に関しては、都市計画法、場合によったら用途地域変更も、国では法律的には可能というふうに聞いていますので、担当課長におきましては、その辺をもう一度精査して、次に示していただけるようお願い申し上げますし、北村市長におかれましては、近隣の首長、市町と強いきずなの中で、酒々井にはアウトレットモールもできていますし、そこの人たちを榎戸駅から呼び寄せていくような大きな流れの施策、循環バスも含めて周辺整備に努めていただければと思っております。

以上で私の質問は終わります。ありがとうございました。

○議長（湯浅祐徳君）

以上で石井孝昭議員の質疑を終了します。

次に、京増藤江議員の質疑を許します。

○京増藤江君

それでは、質問をさせていただきます。

地元周辺区長さんや市民の皆さんが、平成13年度に榎戸駅周辺街づくり協議会を発足させて今日に至るまで、長い間、粘り強い運動を進めて、事業が始まろうとしています。14年間もの運動は、市民と行政が協力して街づくりを進めるという、街づくりのあり方を示していると思います。厳しい財政のもと、高齢者も若い人も住んでよかったと言える八街にするために、いかに市民と行政が協力するかという点では、今後も大いに参考にできます。

傍聴に多くの方がみえておりますように、住民の皆さんが待ちに待った事業です。

問題は、この榎戸駅施設整備と市民サービスの充実をいかに両立するかということだと思うのです。大き過ぎるクリーンセンターの建設や、八街駅橋上化・区画整理事業、それに関わる第三雨水幹線事業など、大型の公共事業を実施した後に、ようやく榎戸の整備に着手しようとしています。本来なら、私は、八街駅橋上化の後にこの榎戸駅が整備されたらよかったのではないかと思うのですが、この財政難の中、市民の皆さんは、要望してもお金がないと言われる、八街市は今後やっていけるのかと、私は皆さんの心配な声をあちこちから聞いております。

この間、市民の一人当たりの生活は、平成19年度10万2千87円でしたけど、これが最高で、26年度は8万9千472円と、1万1千円以上も減っております。所得が落ち込んでいるわけです。こういう中で、今後、就学援助の充実や生活保護受給者の方々が増えると思われまます。

それでお聞きしたいのですが、今後の市税収の傾向と市民サービスいかに充実させていこうとしているのか、市長にお聞きしたいと思います。

○総務部長（武井義行君）

まず、市税収の状況でございますので私の方からお答えさせていただきます。

現在、市では、市税等徴収対策本部を立ち上げまして市税収の徴収強化に取り組んでおり

ます。市の財源の約4割を占める市税の徴収というのは、大変市にとっても財源の根源となっております。取り組みの成果もございまして、徴収率につきましては、これは国民健康保険税も含めまして上昇しております。

ただ、調停額、全体の額自体が、景気の低迷等もございまして低下しているということから、税額、収入額につきましては若干下がっている状況でございます。そういったことで、今後、景気の回復等にも期待しているところではございますけれども、まず市税収の確保、これにはまだ引き続き努めるのですが、今回の榎戸駅、これを含めまして、こういったことを起爆剤にしながら、市の活性化というのを市もどんどん推進していかなければいけないというふうに考えています。

#### ○京増藤江君

この事業を起爆剤にという答弁でしたけど、今、部長の答弁にありましたように、収納率は、国保税についても前年と同じ程度ということですけど、説明があったように、所得が減っているために、国保税も約1億4千万円減収ということで、この6月議会で、26年度の補正予算が組まれました。この国保税収の減、そして住民の皆さんの健康がなかなか守れないというところで、医療費が増えているということで本当に国保財政が厳しいと、こういう中で、市民の皆さんの命と暮らし・健康を守りながら、いかにしてこの榎戸駅施設を整備していくかと、これが本当に重要だと思っているわけでございます。

先ほどの答弁では、この榎戸駅の整備を起爆剤にしてやっていくと、そして景気回復を願っているということがありました。しかし、今、国がやろうとしているのは、景気を回復する方向ではありません。昨日、国会の会期延長が決まりました。ここで今やられようとしているのは労働者派遣法改悪です。この労働者派遣法改悪は不景気になるのです。それで。

(「議案に対しての質問ではない」と呼ぶ者あり)

#### ○議長(湯浅祐徳君)

京増藤江議員に申し上げます。議案に対する質疑に変えてください。

#### ○京増藤江君

簡単に言いますけど、この景気を回復するということを願っているわけですね。この労働者改悪案法がなれば、正社員ゼロ社会になってしまう。そうすると、八街市の財政もますます困難になってしまうわけです。ですから、国の施策と八街市の施策、これは国の施策がよくなければ八街市の、本当に市長がやりたいと思っていることもなかなか実現できないわけです。この八街市の財政が成り立たなければ、榎戸駅の整備だってどうなるかわからない。私はここを心配しているわけなんです。ですから、本当に市民の皆さんの収入をいかに増やしていくかというところでは、国がやっていることと全く切り離して考えるわけにはいきません。

それで、この6月議会の一般質問において、社会福祉費が増加しているけど、支出と抑制についての質問がありました。先ほどはこの榎戸駅の整備によって、そんなに財政には影響がないというような答弁があったと思うのですが、私はこの27年度の予算編成について

も、市民サービスを大いに削った。例えば長寿祝い金もなくしてしまって、100歳の方の祝い金だけ残したというような、こういう市民サービスを削らざるを得ない。また、職員の給料を減らさざるを得ない。こういう中で、私は来年度の予算編成はどうなっていくのか、市民サービスをこれ以上削らずにできるのか、そして職員の給料ももとに戻すことができるのか、そういう予算編成をすることができるのか、伺いたいと思います。

**○総務部長（武井義行君）**

まず、市民サービスの低下、これは避けなければならないというふうに、基本的に考えております。

それから、職員給与のカットということもございました。職員給与のカットにつきましては、基本的にこの榎戸整備事業を進めるためにしたわけではございません。今後の八街市の財政が継続して安定した財政運営ができるようにということで実施したものがございますけれども、現在、さまざまな取り組みを今市でも進めております。そういったことを受けまして、市の職員の給与につきましても、可能な限り早い時期にもとに戻したいとも考えておりますし、今回の事業につきましても、国の交付金ですとか、また交付税措置のある起債、こういったものを使って市の一般財源の支出を極力抑えておりますので、来年度の予算編成、楽ではございませんけれども、何とか継続的に安定した運営をしていけるものというふうに考えております。

**○京増藤江君**

市民サービスについて、私はちょっと聞きづらかったのですが、サービスは削らないということですか。もう一回。

**○総務部長（武井義行君）**

申し訳ございませんでした。基本的に市民サービスを低下させることは、してはならないというふうに考えております。

**○京増藤江君**

市民サービスを削らないということは、本当に介護保険料を払えない方々に対してもどうするかとか、そして国保税を払えない方々に軽減できるのかどうか、私はそういうことも含まれていると思いますけど、私がここでお聞きしたいと思うのは、例えばこの6月議会でも、財源をどうするかということでは、徴収強化ということもあったと思うのです。徴収強化ということは、さまざまな差し押さえなどもされます。

**○議長（湯浅祐徳君）**

京増藤江議員に申し上げます。質疑とは、提案された議案について、採決する際の判断をするために、疑問点を質するために発言することであります。したがって、質疑とは、提案された議案の範囲内のみについて発言が許されております。また、自分の意見を述べることや要望をすることは許されておられません。以上です。

**○京増藤江君**

わかりました。自分の意見ではないのです。これは市民の皆さんの求めで、本当に差し押



さえとかで困っていると、だから私はお聞きしているのですが、こういうことも市民サービス削減という点では、私は大いに関係があるのではないかと思うのです。それで、今後さまざまな市民の皆さんの願いを実現していく、サービスをきちっと充実させていくためには、本当に国にも協力を求めなければならないと思います。

ですから、今後、地方交付税の削減はさせない、きちんと必要な交付税を交付してもらい、それとか、あと国保税や介護保険なども、充実のためにきちんと国に言っていただきたいということを市長にお願いしておきたいのですが、いかがでしょうか。

(「答弁はいい」「質疑、議案どおりやってよ」と呼ぶ者あり)

**○議長（湯浅祐徳君）**

京増藤江議員に申し上げます。

議題外にわたって質問の範囲を超えております。注意します。

**○京増藤江君**

わかりました。

議案の範囲を超えているということですが、今までの公共事業についても、この榎戸駅の整備についても、公共事業をしつつ市民の皆さんの命・暮らしをいかに守るか、これはどんな公共事業についても、私は両立しなければならないと思いますので、この点について、国がすべきことは国に、私は要求していただきたいということを要望して終わります。

**○議長（湯浅祐徳君）**

以上で京増藤江議員の質疑を終了します。

次に、右山正美議員の質疑を許します。

**○右山正美君**

日本共産党の右山正美です。

先ほど来、いろいろな話、問題が出されております。担当課におかれましては、地元住民の方々と一緒になってJRとの交渉とかいろいろやられて、大変なことだったと思います。

私は、この財源の問題について、これと付随する用地取得・工事、そういった問題について若干お伺いをしたいと思います。

それで、今日提案されているのは、駅の橋上化、これが15億9千900万円、エレベーターが外側に2基、内側に2基付くわけでありまして。これが4基で1億円、JRが1千600万円ですか。JRは1千600万円だよ。8千400万円が市の持ち出し分、今日提案されている以外にね。用地とかそういったものも含めると、また別の金額になるということですが、まず最初にお伺いしたいのは、財源の内訳計画書というのがあります。

それで、この財源についてもうちちょっと詳しくお伺いしたいと思います。国庫補助金は6億4千万円、それで起債が8億6千300万円、県の振興資金というのが6千700万円です。全く市の単費というものが、これは一般会計から出るお金が2千900万円ということですが、その内訳について、もっと詳しくお話をしていただきたいと思います。

**○財政課長（江澤利典君）**

先ほど若干説明はさせていただいたのですが、15億9千900万円の財源の内訳といたしまして、国庫補助金、これは社会資本総合整備交付金と申します。これにつきましては15億9千900万円×40パーセントということで、正式な数字は6億3千960万円、続いて起債、公共事業等債につきましては、今申しました6億3千960万円、全体事業費が15億9千900万円、これを差し引きまして、起債につきましては、その答に90パーセントを掛けた数字が公共事業等債という形になります。それが8億6千340万円というような形になります。

続きまして、千葉県の市町村振興資金につきましては、全体事業費15億9千900万円から、国庫補助金6億3千960万円、それと今言った起債8億6千340万円の出した答えに70パーセントが市町村振興資金ということで充てられるような形になっております。

この3つの残りが一般財源ということになりまして、15億9千900万円から6億3千900万円、8億6千300万円、6千700万円を引いた数字が、約2千900万円というような形で一般財源が出ているわけでございます。

以上です。

#### ○右山正美君

総事業費で27年度、今年度からいろいろ事業が進むわけですが。一般財源も含めて国庫補助金、起債、県振興資金が4カ年にわたっていろいろ予算配分され、分配されて進むわけですが、3年後について、公共事業債等については償還が20年、そして3年後から措置されるということで27年でしたら30年から返済が始まる、順繰り3年ずついくのですが、一番懸念されるのは、先ほど京増議員からもありましたけど、果たして、本当にこの金額が財政に与える影響というのはそれは大変なものだと思いますが、先ほど財政課長は、収支比率も改善の方向である、あるいは義務的経費が減少して、公債費比率も改善されてきつつあるということは言われたわけですけど、でも、しっかりと見れば、この28年度の、来年度の予算が本当に簡単にできるのかどうか。

27年度は、皆さんご承知のとおり、職員の給与カットとか退職が13人とか、そしてもちろんカットに次ぐカット、難病お見舞金とかそういうカットがずっと続いたわけです。そうしてやっと成立したのが27年度の予算なんです。この中でこれを進めて、本当に28年度の予算がすっきりとした、本当に安心して予算編成ができるのかということになってきますと、それはもう私だけではなくて、皆さんも心配せざるを得ないということになるわけでありまして。

先ほど言いましたけど、エレベーターもこの中には入っていませんが、これは財政上そういった形で、今後28年度から付けていかなければならないという状況になります。で、物価高騰で、今度は消費税が10パーセントになっていく。今、年金暮らしの方が3万人ぐらいいらっしゃるのです。そうすると実労働、働いていく年齢の人たちもだんだん減少して、人口減少とあわせて税収も減ってくるということになりかねませんし、こういったもろもろのことを考えると、本当に安心なのかなという懸念もあります。

担当課にお聞きしますが、消費税は8パーセントに固定だとかいろいろ言われたわけですが、将来展望として、そういった不安とか懸念とかそういったものはないのかどうか、その辺についてはどうですか。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

先ほど財政課長が申したとおり、今回の榎戸駅整備に関しましては、市からの一般財源、こちらの持ち出しをいかに少なくできるかということで、JRとずっと協議をしましてまいりました。このJRとの協議の中では、平成25年6月にできました基本設計、この時点で13億2千万円ということでしたが、そこから1年半後の27年2月には約17億5千万円という形で、かなり大きく上回ったと。このままでは榎戸駅はできないだろうということで、JRに対して全体の見直しをかけた。それで今回のこの額まで下がったということです。

今後の展望でございますが、駅広場の整備も含めまして周辺地域の整備につきましては、今後の財政状況を見ながら検討していかなければいけない。ただ、西口の駅広場をそのままにするわけにはいきません。ある程度皆さんが使いやすいように改善しなければいけないというふうに考えておりますので、その辺も今後の検討課題と考えております。

**○右山正美君**

担当課が頑張ったということは最初に言いましたが、苦勞されたということもわかっておりますが、今、財政的に本当に大丈夫なのかという不安が、懸念が残るという意味で、私は今質問をしているわけで。

今言いましたとおり、要するに橋上化したものの、やはりロータリー、車がその中で回転して出ていく、東口もそういった形でやられる。そういう財源というのは、ここからまだ計画されていないわけですね。さらに、この約16億円のほかに、そういった付随するエレベーターもそうですけど、用地取得とかロータリー工事とかもろもろかかってくるということだと、この15億9千900万円がもっともっと全体の総事業費としては膨らんでくるということになるわけでありまして。

エレベーターの問題は、この橋上化の15億9千900万円には含まないのですが、先ほど言ったとおり、4基ですから、JRが1千600万円だと思ったのですが、これは8千400万円が市の持ち出しになりますけど、これでいいのかどうか、その辺の認識。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

エレベーターにつきましては、これは駅構内の自由通路に付きます。各2基ずつ4基つきますが、これにつきましては15億9千900万円の中に入っております。

**○右山正美君**

では、15億9千9、だけど、この中ではエレベーター設置を含まないと書いてある。財源内訳に。

**○都市整備課長（大木俊行君）**

事業費としては含んでおります。ただ、エレベーターにつきましては、今後、この補助金

関係もありますので、補助関係を使ってやりたいと。今現在はこの補助金を含んでいない形でやっていますので、エレベーターについてはバリアフリー化の事業として、今後申請をして補助金をいただきたいというふうに考えております。

**○右山正美君**

では、エレベーターの設置もこの1億5千900万円の中には入っているということで認識していいですか。いいですね。

市単独の、財政課長が言われたこれは2千900万円で間違いありませんね。2千800万円と何か先ほど聞いたのですけども、2千900万円で間違いありませんね。

**○財政課長（江澤利典君）**

多分お渡ししてあるものが100万円単位で書いてあるのかなと思うのですが、正確に言うと2千880万円で、約2千900万円ということでございます。

**○右山正美君**

100だったら100とかそういうのも。

ではもう1つ、県の振興資金、30年度1千万円と言われましたけど、1千100万円で間違いはないのかどうか。それも約ですか。

**○財政課長（江澤利典君）**

振興資金につきましては、先ほど計算式を申しましたように、国庫補助、起債を引いた残りの分の70パーセントということになっておりますので、全体で6千720万円ということになっております。

**○右山正美君**

八街駅も16億円ぐらいかかりましたよね。15億円か、それで1億円がJRということで。今回、榎戸はJRは7千万円ぐらしか、これは自分のところが発券機とかそういったものでしょうけど、それしか支出しないということで、これはそういったところにもいろいろ問題はあるのですけど、とにかく財源的に15億9千900万円というのは大きな額で、それが運営する28年度の予算編成とか、あるいは全体的に言えば市民負担にこれがつながっていくということであれば、私は大変な問題になってくるのではないかと。27年度の予算にしても、先ほど言ったとおり、市民サービスを削りながら、職員に負担をさせながらでき上がった予算であって、28年度は本当にそれでできるのかどうかと。これもまだ不安に残るわけでありまして。

ですから、財源的に、担当課もいろんな問題で努力されている、もっともっと縮小させていくということも構えていく必要があるのかなという具合に思いますので、そういった意味で、ぜひやっていただきたいなとそういうふうに思います。

以上で終わります。

**○議長（湯浅祐徳君）**

以上で右山正美議員の質疑を終了します。

会議中にはありますが、昼食のためしばらく休憩をいたします。

午後は1時10分から再開します。

(休憩 午後 0時00分)

(再開 午後 1時10分)

○議長（湯浅祐徳君）

再開します。

休憩前に引き続き会議を開きます。

大木都市整備課長より発言を求められておりますので、これを許します。

○都市整備課長（大木俊行君）

先ほど答弁いたしました内容に一部誤りがありますので訂正させていただきます。

小高議員にご答弁いたしました防犯カメラと防犯灯についてでございますが、今回の事業には含まれないとお答えいたしました。しかし、この駅舎改修事業ではなく都市再生整備事業といたしまして、防犯カメラを自由通路に4台、防犯灯につきましては既存のものをLED、または新規のものについても設置をする計画で進めておりますので、ご了承いただきたいと思っております。

また、右山議員にご答弁いたしました駅構内のエレベーターのJR負担分については、今回の15億9千900万円に含まれるのご答弁でしたが、JR負担分につきましては、JR分について負担金7千200万円に含まれておりますので、今回の15億9千900万円には含まれておりません。

なお、JR負担以外のエレベーター設置費用については、全額が今回の15億9千900万円に含まれております。

以上、訂正をさせていただきます。

○議長（湯浅祐徳君）

次に、丸山わき子議員の質疑を許します。

○丸山わき子君

それでは、私、議案第10号、平成27年度一般会計補正予算に関わりまして、質問をするところであります。

先ほど来、住民の多くの皆さんが傍聴に見えました。そして、私も、一日も早くあの榎戸駅を利用しやすくしてほしいのだという声を伺ってまいりました。私は、泉台が開発されて以来、ずっとそうした住民の皆さんの声を伺ってきました。一日も早い、使いやすい榎戸駅を早く進めていただきたいということも、この間、私は議会の中で取り上げてまいりました。

今、朝からの質問者が心配されている問題の1つに財源、これが本当に心配であるという内容のものが多かったと思っております。私も5日の一般質問では、規模縮小化の榎戸駅で確実な駅改修を進めるように求めたところでありますが、詳細設計が示されない中での質問でございました。明快なる答弁もいただけないままの状況でございました。

ここへきまして、追加議案ということで、若干の様子が見えてきたところでありますが、しかしながら、どうもこの全体像が見えづらいというのがあります。まずお伺いいたします

のは、この榎戸駅改修に係る総工費、これはどのくらいなのか。まずお伺いいたします。

○都市整備課長（大木俊行君）

総工費は16億7千100万円でございます。

○丸山わき子君

この中で、JRの負担割合、これは何割なんですか。

○都市整備課長（大木俊行君）

負担割合といいますか、先ほど申しましたとおり、国土交通省で出されています自由通路の整備及び管理に関する要綱、この中で定められております。駅舎につきましては、現在の駅舎と同等のものを設置した場合、そこから現在の駅舎を差し引いた額、それと駅構内のバリアフリー、これは駅構内のエレベーターでございますが、その整備費の3分の1、今回の7千200万円には下りホームの旅客上屋がついております。

○丸山わき子君

そうしますと、その負担割合は4.3パーセント程度、そのように理解してよろしいでしょうか。

○都市整備課長（大木俊行君）

はい、そのとおりでございます。

○丸山わき子君

私は、確かにこの間、市長また職員の皆さんがJRに出向き、いろいろと交渉を進めてきたということは、もう重々その努力は本当に認めるところであります。

しかしながら、こうして計画が出てくるにあたりまして、協定書はこの先だ、この先だということなんですけれども、協定書案なるものをこの議会に示してもいいのではないかと、そこで初めて透明性のある計画書が見えてくるのではないかというふうに思うのですが、その辺について、市長、この協定書案なるものは出せないのかどうか、その辺についてお伺いいたします。

○都市整備課長（大木俊行君）

協定書の案でございますが、まずこの予算が通過しないことには、JRの方も協定書案については出してこない。この案につきましては、八街駅の協定書もございます。その中とほぼ同じような形になるかと思いますが、ただ、榎戸駅については内容が変わってくるかと思っております。これについては、この議会の方で通りましたら、JRの方と協定については煮詰めていきたいと考えております。

○丸山わき子君

その辺の問題なんですよね。JRが示さなければこっちは出せないのではなくて、逆に、私としては、こういう内容で、こういう方向で持っていきたいんだと、だからこれだけの予算が必要なんだという、そういうものはぜひ示すべきではないかと思うんですよ。

それで、先ほど総工費は16億7千100万円だという答弁がございました。債務負担行為、これは12億5千600万円が、これは最高の限度額が提示されているわけですけど

も、もっとこの工事は私は膨らんでいくのではないかと。総工費としてはどのくらいまでを見込んでいるのか、その辺についてはどうなんでしょうか。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

八街市の負担が15億9千900万円と、これは何度も申し上げておるのですが、これはマックスの額を今示しております。JRに対しましては、今現在ももっとさらにこれを縮減できないかという願いを何度もしております。先日、1週間ほど前、JRの設計担当課長とも話をしまして、いろいろな方向を今考えております。まずは土留めの工法を変えるとか、あとは工事を、通常は終電が行ってから始発までの夜間工事が基本ですが、これを昼間もできるところはやって工期を短くする。工期を短くすることによって事業費を安くするということを、今検討しております。

#### ○丸山わき子君

先ほど示された額よりももっと削減されていくはずであるということで、よろしいわけですね。

私は、この橋上化の問題につきましては、もっと検討を加えなければならないのではないかとこのように思うわけなんです。まず、今、東京オリンピックという影響もあって、資材や人件費高騰の中での榎戸駅の改修に入っていくというふうに思うわけですが、その影響を、一体どのくらい資材がアップするのか、また人件費がどのくらいアップしての先ほどの予算になったのか、その辺についてお伺いいたします。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

確かに資材、または労務費が高騰しております。これは、2020年の東京オリンピックが決定されたから上がったわけではなく、その前から上がっておりました。特にこの2020年の東京オリンピックが決定いたしましたから、かなり上がっております。

まず、労務費でございますが、鉄筋工、これは平成14年度は1日1万7千600円でございます。これが今年度、平成27年度は2万5千200円。アップ率は43パーセント。資材におきましては、鉄筋が1トン当たり、平成14年には2万7千円でございます。これが平成27年度は6万2千円と、230パーセントのアップ。これだけの資材が上がっております。

以上でございます。

#### ○丸山わき子君

私は、さきの一般質問でも、こういう資材高騰・人件費高騰の中で、本当に割高な工事をやらなければならないと。もっとこの、私は榎戸駅の改修をやるなというわけではないです。やらなきゃいけないので、しかし財源も限界があるわけですから、それを縮小したらいかかという提案をしてきたわけですが、今回のこのように大変な資材・人件費高騰の中で、本当に事業見直しをやりつつ進める必要があるのではないかとこのように思うわけです。

例えば、JRの既存の跨線橋を利用して、安価な整備をする方法ということが1点、検討されたわけですね。これはJRの見解は、既存の跨線橋が現在の基準を満たしていないため

に、既存を利用した方法はできないので、かけ替えが必要であると。この場合の跨線橋のかけ替え費用は市の都合によるものであることから、全額市の負担となると。そしてバリアフリー化が必要になることから、設置費用を全額負担もしていただきますよ、それが条件ですよということを、JRが述べているわけですね。私は、これが1つ、キーポイントではなかったかなというふうに思うわけなんです。

こうしたJRが、あの現在の跨線橋は基準に達していないんだと。本来なら建て替えなければならないけど、利用が少ないからもう知らないよというのが、JRの見解だと思うのですけれども。これを八街市が実際に事業をすると。あそこだけいじっても仕方がないので、東口を開設すると。東口についても、JRは一駅一改札の方針というのがあるわけで、しかしながら、自治体が開設して維持管理すれば、それは構わないよというのが、JRの対応だと思うんですね。

こういった取り組みも、本来なら検討してもよかったのではないかな。本当に財政的に厳しい厳しいという中で、この榎戸駅の改修事業をやるわけですから、市民にとっても利便性を図る、八街市にとっても財政難の中で軽減を図っていく、そういう取り組みをもっともっと研究するべきではなかったかなというふうに思うわけですが、その辺については、いかがでしょうか。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

このJRの改修につきましては、平成13年に地元の勉強会が発足した、そこから始まったことでありまして、14年続いております。この中で、市の職員も地元へ行って勉強会に参加して、いろいろな勉強をしておりました。その内容につきましては、JRに対して、今言われたとおり、跨線橋を使ったもの、東口を開設するもの、それ以外のものという形でいろいろな方法を検討しておりました。JRに対してもこの辺については、単なるJRの言いなりになっているわけではなく、市の方向性もいろいろ言ってきたのですが、先ほどから言っています一駅に一改札口、これについては方針は曲げないと。伺っておりますと上総一ノ宮が東口を開設するというふうにお話を聞いておりますが、一宮町もJRもそんなことはない、協議はまだしていません。JRとすれば、JRはこれは認めないんだという方向と、私は聞いております。

このようなことから、東口、また東口の用地が、今の八街榎戸駅の東側には用地がないということもございます。この辺から駅東口についてはできない。それから跨線橋については、跨線橋の利用についてもいろいろ検討してまいりました。ただ、跨線橋だけ直せば利便性向上になるかという、そんなことはないです。跨線橋というのはあくまでも構内ですので、もし跨線橋をやるのであれば、自由通路も作らなければいけない。自由通路を作ると、自由通路と跨線橋を往復する形になるんですね。往復する形が利便性向上になるかという、私はならないと思いますので、今回の結論に至ったこととさせていただきます。

#### ○丸山わき子君

それは自由通路にこだわるからいけない。東通路をつくってしまえば、今ある跨線橋もさ



らに向こう側へいつているわけですから、それは幾つもの作る必要はないのではないかと。

それと、上総一ノ宮駅は、榎戸駅と全く同じように東口を作らなければならないということで、住民の皆さんの声からこの計画をして、約18億から20億円近い計画を立てたようでございます。しかし、財政難の中で、これをどれだけ規模縮小をして、住民の皆さんの利便を図るかという取り組みをしてきたと。このあたり、やはり自治体が維持管理すれば、東口開設オーケーがとれたと。それで、今、国が進めている地方創生のこの取り組みの中で東口設置の取り組みをしていくのだと。この地方創生でどう街づくりを進めるのかというのが問われるということは、関係者が話しておりましたけれども。本当に、機会をねらっていたという言い方はおかしいですけど、機会を待っていて、こうした取り組みを必死で進めているというふうに、私は受け止めました。

これから、榎戸駅、これも詳細設計に入って協定書を結んでいくという段階なんですけれども、これは、さらに一層の軽減策を進めていただきたいということは、申し述べておきたいというふうに思います。

それからもう一つ、この自由通路・橋上化によって、街づくりをどう進めるのか、先ほど来これも問題となっていたと思います。

市長の提案理由の中に、「交通結節点の強化を図る」、これが街づくりの一環としての取り組みであろうというふうに私は受け止めておりますが、これはどのように強化を図っていくのか、どういうことなのか、それをお伺いいたします。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

榎戸駅改修に伴いまして、今現在も、例えばふれあいバス等も入っておりますが、このふれあいバス等の停留所をつくっていくということと、あとは交通の利便性も図る必要があることから、JRに対しても朝・夕方の増便等のお願いもしていかなければいけないと。あとは、榎戸駅は、先ほども言いましたが都市副次核という位置付けをしております。八街駅は市の顔だということでございますのが、榎戸駅につきましては、地域にあった街づくりを進めていかなければいけないのかなというふうには考えております。

#### ○丸山わき子君

私は、八街駅と同じような結果にしてしまっはまらずいと。八街もこんな感じで作りますと。しかしながら、街の発展の方向がいまだに見出せないというのが、実態であろうかというふうに思います。榎戸駅も、財政難の中で約16億円を投じて駅を作るわけなんですけれども、本当に街づくり、また交通結節点の強化を図る。もっと具体的に計画があってもいいのではないかとこのように思うわけです。駅を作るときだけのかげ声には、絶対に終らせてはならないというふうに思います。

榎戸駅は、バブル時代の人口増に伴って、駅利用者が最高となったのが平成9年なわけです。それで、業務委託によって有人化となったわけです。残念ながら、今、利用が減りつつあるというのが実態なんです。今年度からは、業務委託の人員配置に関しましても、時間的には縮小化されていくと。このような中で、この交通結節点の強化をどう強め、本当に榎戸

駅が利用されていくのか。また、それと同時に街づくりがどう進められていくのか。これは早い時期にこうした計画をきちんと立てていくことが必要ではないかというふうに思います。駅だけができ上がって、あとはおしまいですというような街づくりであってはならない。

私は、これだけの財政難の中で思い切った駅の改修をするわけですから、大きな立場から街づくりの中で榎戸駅をどうしていくのか。また、これだけの榎戸駅をつくったらどれだけの街づくりを展開させていかなければならないのか。これをもっともっとわかりやすく、早く出していただきたい。このように思います。

以上のことを申し上げまして、質問を終わります。

#### ○議長（湯浅祐徳君）

以上で丸山わき子議員の質疑を終了します。

次に、川上雄次議員の質疑を許します。

#### ○川上雄次君

公明党の川上雄次でございます。

今回の議案第10号に関しましては、これまで6名の議員の皆さんからさまざまな詳細にわたる質問がありました。できるだけ重ならないような質疑を行っていきたいと思っております。

まず初めに、榎戸駅の改修に至る経緯でありますけれども、北村市長の本当に強力的なリーダーシップによりまして、大きく事業が進捗しております。また、榎戸駅周辺街づくり勉強会の平成13年の発足から、さらには、榎戸駅周辺整備促進協議会の設立といった形で、地域の皆様からのお声をいただきながら、非常に前進してまいりました。また、庁内におきましても、榎戸駅周辺整備庁内検討会議第1回、第2回、第3回とたび重なる協議が行われております。

私ども公明党としても、この13年以前の話になりますけれども、海野参議院議員に同行していただいて、JRさんに要望に参りました。榎戸駅の上屋について、またトイレ整備、そして東口開設等々の要望をしてきた経緯がございます。こういう形で、今回議案の上程となったことは、非常にうれしい気持ちでいっぱいでございます。

その中で、この榎戸駅周辺の庁内の検討会議においては、さまざまな研究・調査をされたと思います。その辺について、若干その辺の経緯をお伺いします。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

経過につきましては、何度も申し上げておりますが、平成13年に地元での勉強会が始まりまして、平成19年度にこの勉強会をもとに榎戸駅周辺整備促進協議会というものが設置されております。ここへ職員が参加しまして意見交換が行われております。この意見交換をもとに、JRとの協議に入っております。JRとの協議は、当初から跨線橋を使ったもの、または東口を開設、または駅の橋上化、こういうものを含めましてさまざまな方向からJRとの協議に入っております。

当初から、八街市が財源的にもかなり厳しいというのはわかっておりましたので、なるべ

くどうにか抑える方法はないのかということから始まっていました。

ただ、先ほどから言っていますように、東口の改札についてはかなり難しい、それから跨線橋は難しい、それから自由通路だけはJRでは作らせないのだということが、3本そろいまして、最終的な段階となりまして、自由通路を設置した上で橋上化駅をするという方向性が決まりました。

#### ○川上雄次君

JRさんの対応というのが、前支社長、その前の支社長ですか、何か非常に厳しいものがあって、前進するのが大変だったと思います。

その中で、今回の予算案を計上するにあたって、近隣の自治体での駅舎の建設、例えば物井であったり、あるいは、小林とか安食とか検討したと思うのですが、対比されたと思うのですが、その辺についてはどういう見解だったのでしょうか。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

今回の事業につきましては、さまざまな駅を視察しております。榎戸駅に近いのは小林駅が一番近いかと思えます。形的には自由通路がコの字になりますので、榎戸駅と一緒にあります。小林駅につきましては、総事業費が18億3千424万2千円、うち市の負担が17億4千199万2千円、JR負担が9千225万円。若干八街市の榎戸駅よりも高くついておりますが、形的にはかなり似ているかなというふうには思っています。

それから、安食駅を視察してきたのですが、安食駅につきましては、今現在、駅ホームからちょっと離れたところに歩道橋のような形で線路をまたいでいるものがあります。そこに、両方にエレベーターを設置しただけ。駅ホーム内跨線橋についても何もいじっていないという形で、表側だけはエレベーターがついているのですが、中については何もついていないということで、ちょっとこれについては、あまり好ましくないのかなというふうには思っております。

それから、先ほどから出ています上総一ノ宮については、八街市の榎戸と何が違うのかというと、まず上総一ノ宮については、もう東口の広場が整備できている。用地的には確保できているんだと。それと榎戸駅につきましては、西と東で高低差が2.5メートルぐらいありますので、その差がかなり大きいかなと。これもちょっとあまり参考にはならなかったという点でございます。

#### ○川上雄次君

ありがとうございました。

それでは、今回の予算案、詳細設計につきましては、今年2月においては17億5千300万円というのが、担当課の非常にご努力もありまして、JRさんとの交渉の中で見直しということで、15億4千万円となりました。内容的にはどここのところを削って、こういう形になったのでしょうか。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

先ほど申しましたとおり、当初の予定から4億4千万円ほどオーバーしておりました。何

を削るかといいますと、まず、階段部分の壁をなくしております。これは自由通路の壁だけですが、なくしました。それから通路部分の天井、屋根はついていますが、内側の化粧の部分については、この天井をなくしております。全体の重さをなくしたことによって、杭打ちの工事から杭の長さから変わっております。それから、なるべく使う品物については2次製品、いわゆる既製品を使うということで、そのかわり作るものとか既製品以外のものは使っていないということで、かなりの額を落としております。

#### ○川上雄次君

その努力の跡が伺えて非常にありがたいなと思いますが、ちょっと気になるのは、屋根部分があって天井部分がないのは、簡素化ということで構わないと思うのですが、側壁の部分で階段ではなくなると、雨が吹いたときの横なぐりのときは、足もとがぬれたりということも考えられるのですけれども、八街駅ができたとき、フロアが、雨が降った後、エレベーターを上がって、滑りやすく転ぶ方がいたりとしたのですけれども、この階段については、滑りにくい素材でそういったものに対処・対応とか、今後、後付けでも壁はできるのかどうか、その辺はいかがでしょうか。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

まず、壁がなくなるということで雨が心配です。これは私たちも考えておりました。ですので、その辺は滑りにくい材質の方にできるような形で、これは今後JRとの協議の中で進めたいと。それから壁の設置です。これは後付けですが、なかなかこれは難しい問題でありまして、全体の重さを減らすことによって、杭打ちの杭の長さからこれを変更してしまっております。ですから、今後その壁部分が付けられるかどうかということのも、またJRの設計部門と協議をしなければ決まらないのかなというふうに考えております。

#### ○川上雄次君

わかりました。今は、軽量化された薄くて頑丈な素材もありますので、全面壁がなくても半分とかいろいろ工夫してもらえればと思いますので、よろしくお願いします。

それから、財源について、かなりいろんな論議がありましたので、この間、八街市の財政状況も、26年度の決算が出てきていると思うのですけれども、税収の推移はいかがでしょうか。財政課の方をお願いします。

#### ○財政課長（江澤利典君）

現在、平成26年度の決算ということできております。その中で、市税全体の収入につきましては、予算現額から比較いたしますと、1億8千万円ほど収入増というふうになっております。25年度と26年度を比較いたしますと、これは収入済額で比較しますと、約8千500万円ということで、税収につきましては、若干上向きになっているというような状況でございます。

#### ○川上雄次君

ありがとうございます。これから本市においてもプレミアム商品券の導入が、8月の半ば、10日からあるということですので、さらに経済活性化で税収に結び付けると、このよ

うになっております。

それから、榎戸駅を本市は八街駅に続く副次核という形で捉えております。この件に関する質疑もこれまでありましたけれども、駅をつくって終わりというのではなく、ここがスタートで、地域の活性化、また本市の発展に結び付けていかなければならないと、このように思っております。このバリアフリーの榎戸駅ができれば、酒々井のアウトレットモールにも一番至近距離のバリアフリーの駅というふうにもあると思います。そういった意味では、新たな発展の要素、ポテンシャルが上がると、このように思いますが、本市の総合計画等についての位置付けはどのように考えていらっしゃるか、お伺いします。

#### ○総務部長（武井義行君）

この件に関しまして、先ほども若干触れさせていただきましたけれども、八街市基本構想の中で、榎戸駅周辺の整備につきましましてはしっかりと記述をさせていただいております。なお、現在、第三次基本計画を策定中でありまして、あわせてまして地方版の総合戦略、これも策定しなければいけないという時期にあります。その中でしっかり、より具体的なものを記述していきたいなと思っております。

それと、今、議員がおっしゃいましたように、ただ駅を整備するだけではいけないということで、1つ紹介させていただきますと、この3月には、うちの北村市長、それから近隣の山武市の椎名市長、それから酒々井の小坂町長、この3人の連盟ということで、JR千葉支社に要望書を提出しております。その中には、普通列車の新設ですとか快速列車の増設というのがあるのですが、特に榎戸駅に関連しましては、通勤時間帯における特急「しおさい」の停車の要望ですとか、また長い編成の列車に対応できるようなホームの延伸、それから今千葉駅側にあります榎戸踏切、これは大変危険ですので、この改修ですとか、こういったさまざまな要望も行っております。

こういった要望活動も含めながら、今後の計画等については立てていかなければいけないと思っております。当然、私たち職員はこの事業をしっかりと推進することによりまして、着実に地域の発展、それから市の活性化につなげたいというふうに考えています。

#### ○川上雄次君

ありがとうございました。

1点確認したいことがあるのですが、西口のロータリー化が今考えられておりますけれども、この前、現地調査をさせていただいた用地は、先ほどの説明の中にありましたけれども、この駅前の用地の先に隣接している位置指定道路が本市でも購入したとのことですが、この道路を含めてのこのロータリー化の形なんですか。

#### ○都市整備課長（大木俊行君）

先日、現場を見ていただいたときに、入っていった通路、あれが市道部分ですが、その部分も購入しております。その部分を含めた形でのロータリーを計画しております。

#### ○川上雄次君

ありがとうございました。

あと、東口の件ですけれども、先ほどご説明がありました。これは東口の左右から車が入った場合の対策なんですけれども、もうちょっと詳しく説明していただけますか。

○都市整備課長（大木俊行君）

東口のロータリー整備につきましては、今年度設計を組みますが、今現在、駐車場になっております。舗装されておりますので、できればその形を、少しの間ですが使えるような形を、中で車が回っているようなロータリー形式にできるかなというふうには考えているのですが、それが難しければ、どうにか安い方向で考えていかなければいけないのかなとは思っております。

○川上雄次君

以前の全員協議会の説明の中で、もとのスーパーの跡地については、JRの方でまだ交渉しているというような話だったのですけれども、その経緯をお願いします。

○都市整備課長（大木俊行君）

東口の踏切側の店舗は空き店舗になっていますが、この前は、その用地を市の方で購入したかったのですが、折り合いがつかなかったということです。ただ、今斜面になっているところについて、JRとしては、あそこを一部借りて土留め方式の変更をしたいと。そうすることによって、全体の額も下がってくるだろうと。これは、今JRがその所有者の方にあたっているということで、まだ結果はきておりませんが、あたった形で、もし借りられるのであれば借りて、その辺の工事の内容を変えて、もっと額を落としたいというふうには聞いております。

○川上雄次君

ありがとうございました。

いずれにしても、大変大きな事業ですが、また市民の皆さんの期待の大きな事業でもあります。しっかりと取り組んでいただいて、極力早いうちに供用開始という形、完成するように要望しまして、私の質問を終わります。

○議長（湯浅祐徳君）

以上で川上雄次議員の質疑を終了します。

これで通告による質疑は全て終了しました。

議案第10号の討論通告受け付けのため、15分間休憩しますので、休憩時間中に通告するようお願いします。

休憩します。

（休憩 午後 1時48分）

（再開 午後 2時02分）

○議長（湯浅祐徳君）

再開します。

これから討論を行います。

討論の通告はありません。

これで討論を終了します。

これから、採決を行います。

議案第10号、平成27年度八街市一般会計補正予算についてを採決します。

この議案は原案のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○議長（湯浅祐徳君）

起立全員です。議案第10号は原案のとおり可決されました。

本日の日程は全て終了しました。

会議を閉じます。平成27年6月第2回八街市議会定例会を閉会します。

この定例会は、終始熱心な審議を経て、全ての案件を議了し、ただいま閉会になりました。

執行部は、各議員から出されました意見を十分尊重し、市政を執行されますよう強く要望いたしまして、閉会の挨拶といたします。

議員の皆様方に申し上げます。この後、議会だより編集委員会を開催しますので、関係する議員は第二会議室にお集まりください。

ご苦労さまでした。

(閉会 午後 2時04分)

○本日の会議に付した事件

1. 議案第10号

質疑、討論、採決

.....  
議案第10号 平成27年度八街市一般会計補正予算について



上記会議の次第を記載し、その相違ないことを証明するためにここに署名する。

平成 年 月 日

八街市議会議長 湯 浅 祐 徳

八街市議会議員 小 山 栄 治

八街市議会議員 木 村 利 晴